

Title	三田史学会刊行助成金による出版図書, 受賞のお知らせ
Sub Title	
Author	
Publisher	三田史学会
Publication year	2008
Jtitle	史学 (The historical science). Vol.76, No.4 (2008. 3) ,p.121(455)- 121(455)
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	彙報
Genre	
URL	<a href="https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00100104-20080300-0121">https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00100104-20080300-0121</a>

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

三田史学会刊行助成金による

出版図書、受賞のお知らせ。

高瀬弘一郎著『モンズーン文書と日本—十七世紀ポルトガル公文書集』（平成十八年、八木書店）が、平成十九年度第五回「徳川賞」を受賞され、十一月三日霞会館において授賞式ならびに記念講演会が執り行われた。高瀬弘一郎氏は、本塾名誉教授。『キリシタン時代の研究』（岩波書店 昭和五十二年）により学士院賞を受賞されている。

今回受賞の対象となった著書は、在リスボン、Torre do Tombo（国立公文書館）所蔵のモンズーン文書（リスボン・ゴア【ポルトガル国王・インド副王間】の公式往復文書）の解説を中心とする研究である。日本のみならず、ポルトガルとアジアの海外領土との関係を、膨大な手稿史料を駆使して明らかにされた。従来のキリシタン史研究の枠を越え、当時の世界史の上に日葡関係を載せた前人未踏の業績の達成として高い評価を受けた。

桃崎有一郎君 博士学位請求論文 審査要旨

論文題目 「室町時代公武権力と朝儀礼節秩序の研究」

論文要旨

本学位請求論文は、室町時代の最高権力者である「室町殿」（室町幕府の首長。足利氏の家督ではあるが、必ずしも現任の將軍ではない）のありようを、公家社会との関係において検討したもので、その構成は以下の通りである。

緒言 室町殿論の意義と諸前提

第I部 室町殿論の到達点と今日的課題

第一章 室町殿論・公武関係史論研究史①

—伝奏論・公武統一政権論の前提と周縁—

第二章 室町殿論・公武関係史論研究史②

—特に伝奏論と公武統一政権論について—

第三章 室町殿論・公武関係史論の課題

—公家社会論・中世公家儀礼研究の必要性—

補論 水野智之著『室町時代公武関係の研究』について

—公武関係史論における家督安堵権能論—

第II部 室町殿の朝廷・公家社会支配開始とその実相

第四章 足利義満の公家社会支配と「公方様」の誕生

第五章 室町殿の朝廷支配における強制力について